

## 編集後記

- ・良く聞かれるようになった「雑穀」ですが、国産は極わずか。2号ではその雑穀を特集しました。
- ・国産雑穀の主産地岩手県からは、新品種育成等雑穀研究の経緯と実績、地域の雑穀生産の現状と新たな動き、消費拡大に向けた対応等をご紹介いただきました。雑穀栽培が地域農業に組み込まれ、品種、種苗、栽培等試験研究、加工・販売対策等々産地としての体制整備の状況が垣間見えます。
- ・岩手大学農学部からは、雑穀を通じた地域との連携を紹介いただき、食文化等も含め現場に根付いた学舎の実学の実践状況がうかがえます。
- ・長野県からは、県内の雑穀生産の概要と新品種の育成と実績、生産現場の状況を紹介いただきました。鳥害対策、農薬問題等生産現場や品種種苗の課題等が提起されています。
- ・また、関係者で組織されています「雑穀研究会」の活動状況等を紹介いただきました。生産、研究、実需、消費をつなぐ「場」として期待されます。
- ・関係機関紹介では、作物研究所の資源作物見本園を取り上げました。実際に見学したいものです。
- ・産地紹介では、長崎県南島原市と鹿児島県喜界町から生産現場の状況を紹介いただきました。南島原市は雑穀生産の課題に対処するため生産組合を組織し、積極的に雑穀振興に取り組まれており、また、南海の小島ながら日本一のごま産地となっている喜界町は、生産者の高齢化、品種等の課題を抱える中での力強い取り組みを感じました。
- ・研究情報では、作物研究所からごまの持つ有用特性と新育成品種「ごまぞう」について紹介いただきました。喜界町の品種課題の一つのヒントとなるかもしれません。また、アマランス・キノアシンボジュウム（研究会）について、その設立経緯、活動状況等について紹介いただきました。雑穀研究会と同様にその活動成果が期待されます。
- ・行政情報では、「東北地域特産農作物振興連絡会議」等について東北農政局より紹介いただきました。東北地域は特産農作物の産地が多く、行政面からの一つの振興運動として期待されます。
- ・雑穀通じて、特産農作物の課題が更に鮮明になりました。日本農業の課題と重なる部分も有りますが、特産農産物ではその度合いが更に顕著に表れているように感じます。現場では、機械開発等それぞれの産地の実状に添った生産体系の改善が進められてはいますが、生産規模が零細故から公的支援は限られ、地域や、生産者に委ねられている部分が多いようにも見受けられます。巻頭言で述べられているように、在来品種や伝統的栽培技術を尊重しつつ、地域の地勢、担い手等の実体を踏まえながら生産体制構築を進めることも肝要かと思いました。
- ・創刊号のアンケートへの御協力有り難う御座いました。取り上げて欲しい作物・情報等々ついて、多くの要望や感想をお寄せいただきました。また、多くの励ましのお言葉を賜り、有り難く心してお受けします。
- ・内容は、技術情報、産地の取組情報、バイオマス等作物の種苗情報、加工・調理情報、特産農作物の産地の振興体制、種苗育成者権の取得・許諾・侵害等情報、PVP対応、海外情報等、取り上げて欲しい作物として、ハトムギ、いも類、サトウキビ、水稻、特産豆類、地方野菜、特産果樹等々でした。
- ・寄せられましたご意見、要望等を編集に取込、期待に応えられる「特産種苗」を目指します。
- ・基本として誌名「特産種苗」のとおり、特産農作物の品種・種苗が主題と成らざるを得ませんが、関連した情報として生産、流通、加工、消費の情報も幅広く取り上げて行きたいと思います。
- ・対象作物は特産農作物ですが、古代米、黒大豆、

京都大納言、加賀野菜等主要農作物、野菜の中にも地域特産農作物と言われる作物が多くありますので、それらも積極的に取り込んでまいります。

- ・新品種、新技術等については育成者、開発者に随時解説を依頼し、詳細に解説いただきたいと思っております。

- ・その他、育成者権関係、産地関係等々についても情報収集に努め、随時取り上げて行きます。
- ・ただ、私どもの情報収集には限りがありますので、皆様からの投稿、情報提供、意見具申等随時お願い致します。(上野)

投稿のお願い

特産農作物は生産規模が小さく、且つ、特定地域に特化した形で生産されており、その情報は限定されております。各産地の取組む作物・気候等の条件は違っても、種々の断片的な情報であっても、他産地の情報1つ1つが生産の振興・改善のたたき台として、それぞれの特産農作物、地域特産振興の一助になるのではないかと考えます。

このような視点から、特産農作物に関する論説、種苗供給や栽培等技術論、品種・栽培等試験研究成果、産地の取組状況、産地紹介、イベント紹介等々、種苗に絡んだ幅広い分野についての投稿を歓迎致します。

〔原稿作成要領〕

1. 原稿は、パソコンのワープロソフトで作成し、Eメールの添付ファイルまたはデスク(FD、CD)で送付下さい。(OSはWindows、ソフト：本文は一太郎またはWord、図表などはExcel、Wordを希望します。)

2. 本文原稿の入力は、A4縦置き横書き、1枚40字40行で入力(手書きでも可)図表、写真を組み込んで作成頂いても、別途、図表・写真だけでまとめ、挿入箇所を指定して頂いてもよろしいです。(カラー希望の写真も、原則的には本文中にモノクロで掲示し、グラフィックでカラー掲示とします)

3. 掲載原稿につきましては、規定の原稿料と掲載誌をお送り致します。

(本件に関する連絡先)

財団法人日本特産農作物種苗協会

住 所 〒107-0052

東京都港区赤坂2-4-1 白亜ビル

T E L 03-3586-0761

F A X 03-3586-5366

e-mail : info@tokusanshubyo.or.jp

発行日 平成21年4月1日

発 行 財団法人 日本特産農作物種苗協会

〒107-0052 東京都港区赤坂2丁目4番1号

白亜ビル 3階

T E L 03-3586-0761

F A X 03-3586-5366

U R L <http://www.tokusanshubyo.or.jp>

印 刷 (株) 丸井工文社